

# 會務報告

第24卷第10號 昭和13年10月

## 役員會

### 第14回理事會(昭.13.8.12.)

出席者：辰馬會長，新井，平山兩副會長，金子，高橋，  
榎木，川口各理事，大河戸前會長，遠藤貞一  
君，中村書記長，小野寺庶務主任

#### 議事

1. 土木學會代表視察員北支派遣に關し次の事項を協議決定せり。
  - (1) 代表視察員として大河戸宗治君，新井榮吉君，隨行員として遠藤貞一君(内務助手)を派遣すること。
  - (2) 期間を出發の日より起算し24日間とし，旅費を支出すること。
  - (3) 土産物その他の費用は別に支出すること。
  - (4) 8月20日東京を出發すること。

### 第15回理事會(昭.13.8.22.)

出席者：辰馬會長，平山副會長，金子，高橋，榎木，川口各理事，中村書記長，小野寺庶務主任，朝倉會計主任

#### 報告

1. 西部支部商議員並に幹事長及幹事別紙(省略)の通り就任せり。
2. 關東及關西地方水害調査委員會委員に次の諸君を追加依頼せり。

青山武雄君	淺野定一君	淺間逸雄君
井上隆根君	伊藤信君	伊藤剛君
岡部二郎君	柿徳市君	金子源一郎君
桑原竹二君	小牧孟夫君	近藤信一君
佐藤周一郎君	佐藤肇君	千秋邦夫君
田中勤君	高橋嘉一郎君	竹村孝君
塚本積君	中原壽一郎君	花房利市君
樋浦大三君	松井達夫君	松岡又二君
松下幹雄君	光成毅平君	宮本武之輔君
柳瀬正哉君	山口繁君	

3. 文化映畫委員會委員長金森誠之君の後任に青木楠男君就任せり。

#### 議事

1. 地下構造物に於ける鋼材節約調査委員會委員に次の諸君を追加依頼することとせり。

吉田徳次郎君 今井哲君 酒井勇君

2. 杭の支持力公式調査委員會委員金森誠之君，梅津清七君の後任に匹田敏夫君，飯野忍君を依頼することとせり。

3. 出征會員に對し慰問品を贈呈することとせり。
4. 西部支部より増加會員400名の豫想を以て提出せる昭和13年度交附金に對する收支豫算は之を承認することとせり。
5. 入退會の件別紙(省略)の通り承認せり。
6. 各支部の管轄區域を制定する爲，別紙(省略)地面に依り研究することとせり。
7. 秋季視察旅行は時局に鑑み休止することとせり。

8. 10月の講演會は大河戸，新井兩北支土木專業視察代表員の講演を依頼することとせり。

### 第16回理事會(昭.13.9.5.)

出席者：辰馬會長，平山副會長，金子，高橋，川口各理事，中村書記長，小野寺庶務主任，朝倉會計主任

#### 報告

1. 北支那土木專業視察員の日程を別紙(省略)の通り報告ありたり。

#### 議事

1. 第3回同年次學術講演會の開催地は福岡を希望することとし西部支部の意向を聴くこととせり。
2. 外人功績調査委員會の幹事として江澤甚一君を依頼することとせり。
3. 北海道支部長任期満了に就き改選の結果吉町太郎一君再選せられたるに依り之を依頼することとせり。
4. 支部新設に伴ふ關西，九州兩支部の區域に就き意見を徴することとせり。
5. 平山副會長滿鉄理事に転任せられたるに就き9月12日常議員會を開催協議することとせり。
6. 名古屋帝國大学内に土木工学科設置方建議に就ては中部支部へ建議原案の回附方を通牒することとせり。

### 第7回常議員會(昭.13.8.22.)

出席者：辰馬會長，平山副會長，金子，高橋(嘉)，榎木，川口，阿曾沼，青木，菊池，高橋(甚)，中村，森田各常議員，中村書記長，小野寺庶

務主任、朝倉會計主任

## 報 告

1. 鉄道省岡田信次君が淮南炭坑視察のため出張の機会に本會を代表して同地方の土木事業視察方を依頼せり。

2. 北支土木事業視察のため次の諸君を派遣することとし8月20日午後3時東京驛を出發せり。(第14回理事會議事参照)

3. 關東及關西地方水害調査委員會委員に別記(第13,15回理事會議事参照)の諸君を依頼せり。

4. 文化映畫委員會委員長金森誠之君の後任に青木楠男君就任せり。

5. 地下構造物に於ける鋼材節約調査委員會委員に吉田徳次郎君、今井吾君、酒井勇君を追加依頼せり。

6. 杭の支持力公式調査委員會委員金森誠之君、梅津清七君の後任に匹川敏夫君、飯野忍君を依頼せり。

7. 西部支部商議員並に幹事長及幹事に別紙(省略)の通り就任せり。

8. 入退會の件別紙(省略)の通り報告せり。

## 議 事

1. 出征會員に對し慰問品を贈呈することとせり。

2. 西部支部より増加會員400名の豫想を以て提出せる昭和13年度交附金に對する收支豫算は之を承認することとせり。

## 總 務 部 記 事

### 第6回同時局對策委員會(昭.13.8.9.)

出席者: 眞田、米元、金子、高橋(嘉)、町田、伊藤各委員、井上、青山、大河戸各前會長、辰馬會長、新井、平山兩副會長、中村書記長、小野寺庶務主任

中川委員長缺席のため米元委員が委員長代理にて開會。

會議に先立ち高橋(嘉)委員の黄河視察に關する報告並に井上、青山兩前會長が中支視察の所感を述べられ、次で辰馬會長より本委員會より理事會で提議せられた黄河決潰對策に關する建議は一時保留したき旨を語り全會之に賛成した。而して本日の主なる協議事項次の如し。

1. 土木學會出征會員に對し慰問品を贈ることを理事會に提議すること。

2. 黄河を研究して改修計畫を樹て現地技術者の參

考に供すること。

### 第7回同時局對策委員會 於丸ノ内會館(昭.13.8.15.)

出席者: 中川委員長、眞田、久保田、米元、山口、金子、高橋(嘉)、榎木、宮本、菊池、町田、川口、内海、永井各委員、辰馬會長、新井副會長、大河戸前會長、遠藤貞一君、中村書記長、小野寺庶務主任

1. 黄河の研究並に北京大学工学院に關し各委員の意見交換ありたり。委員會終了後土木學會を代表して北支土木事業視察のため出張せらるゝ大河戸、新井兩君の爲、送別晚餐會を開き辰馬會長の挨拶及大河戸前會長の答辭あり午後8時散會した。

### 第8回同時局對策委員會 於丸ノ内會館(昭.13.8.22.)

出席者: 中川委員長、眞田、米元、金子、高橋(嘉)、榎木、菊池、町田、川口、富永各委員、辰馬會長、阿曾沼、青木、高橋(湛)、中村各常議員、井上前會長、田淵壽郎君、吉岡重慶君、牧野雅樂之丞君、池本泰兒君、中村書記長、小野寺庶務主任、朝倉會計主任

中支より來京せられた田淵、吉岡兩君、メキシコより歸朝せられた牧野君、アフガニスタンより歸朝せられた池本君を招待し各關係事業に就き講話を拜聽し午後10時散會した。

### 第17回土木學會文化映畫委員會(昭.13.8.15.)

出席者: 青木委員長、瀧尾、澤、五十嵐、片平各委員、金森前委員長

## 議 事

1. 舊委員長金森君より挨拶あり次で青木新委員長より新方針に就き説明あり、今後の方針に就き協議せり。

2. 応募し來りたる「シナリオ」I編の審査を爲す。

3. 「シナリオ」募集を廣く土木専門雜誌或は専門外雜誌に廣告する様図ること。

4. 藝術社(雜誌文化映畫發行所)より土木映畫製作に就き照會あり、次回には藝術社の者を招致し聯絡を図ることとす。

## 編 輯 部 記 事

### 第9回會誌編輯委員會(昭.13.9.7.)

出席者: 伊藤(信)、伊藤(剛)、大岡、太田尾、立花、風間、黒澤、當山、野口、安宅各委員、糸川、石田兩編輯囑託

**協議事項**

1. 第 24 卷第 9 號所載原稿の謝禮を決定す。
2. 第 24 卷第 11 號登載原稿を次の如く決定す。

論説報告：鐵道省信濃川電気事務所に於ける圧力隧道内張鋼板工事に就て(會、佐藤 豪、准、岡部幸四郎)。愛知縣に於ける 道路改良計畫(會、山口十一郎)。木曾川河水統制の必要(會、山口十一郎)。鐵道橋としての長徑間鉄筋コンクリート拱の設計に就て(會、岩永義美)。大阪市内地盤沈下及対策(會、福留並喜)。航空寫眞測量の實績に就て(會、渡邊寛治)。佐賀國道に於けるコンクリート舗裝(會、大野 博)。大糸線眞那板山隧道直轄工事に就て(准、小田 仁)。

抄 録：道路改修の經濟的考察、二次元彈性体に於ける応力の決定、スタビロメーターを用ひた土質試験、モンタナ州に於ける簡易高速車道、オレンヂ州に於ける洪水調節、粘着力のない土の搦固め試験、受働土圧力公式 Holtwood Dam に於ける揚圧力の測定、Flood Routing の一新法、Augusta 新淨水場、米國水道界の今日の問題、曲がつた棒の振りに關する問題、淨水圧下に於ける楕円及円形版の曲げに就て、道路の調査、軟泥基礎上の航空港、イリノイ州に於ける鐵道と道路の交叉、キャリフォルニア州の床版橋。

時 報：東京都市計畫東京市飛行場、都市計畫關係決定事項。

3. 「土木工学論文抄録」編纂に關し種々打合せを爲せり。

**調 査 部 記 事****第 1 回關東及關西地方水害調査委員會(昭. 13 8. 5.)**

出席者：辰馬會長、新井、平山兩副會長、金子、高橋、川口各理事、眞田委員長、鈴木、阿曾沼兩副委員長、富永、三浦兩幹事、佐藤、佐土原、沖鹽、春藤、河口、西田、末松、今井、下村、山口、平川、關谷、城戸、横山、竹内、後藤各委員、中村書記長、小野寺庶務主任

辰馬會長より本委員會設置に關し挨拶あり次で委員長並に副委員長及幹事の選任を會長一任とし次の通り就任せられたり。

委員長 眞田秀吉君 副委員長 鈴木雅次君  
阿曾沼均君  
幹事 富永正義君 幹事 三浦義男君

**協議事項**

1. 本委員會の要綱を次の如く決定せり。

趣旨：昭和 13 年 6, 7 月に於ける關東、東海地方及關西地方の水害の土木工事に及ぼせる災害の狀況、原因に就き最も正確なる記録を作製すると共に之が對策の大要を攻究し以て土木建築工事上の參考資料たらしめむとす。

設置時期：昭和 13 年 8 月

設置期間：昭和 14 年 2 月末日を目途とす

機 構：委員長 1 名、副委員長 2 名、委員幹事若干名を以て組織す

調査方法：關東、東海地方は直接、關西地方は關西支部設置の調査會と連絡を保持するものとす  
調査區域：

(イ) 關東地方 愛知、岐阜、静岡、長野、神奈川、埼玉、群馬、栃木、茨城、千葉、東京

(ロ) 關西地方 大阪、兵庫、京都

水害調査表様式：別紙(省略)

本委員會に下記部門を設け各部門に主査を置く

第 1 部 總説(氣象、被害概況等)

第 2 部 河川、砂防、灌漑、排水

第 3 部 道路

第 4 部 鐵道、軌道、索道

第 5 部 土地、建築物

第 6 部 上下水道

第 7 部 其他(水力電氣、構造物、港湾等)

2. 各部門の主査及委員に次の諸君を決定せり。

第 1 部 總説(氣象、被害概況等)

主査 眞田秀吉君

委員 宮本武之輔君、伊藤 剛君

第 2 部 河川、砂防、灌漑、排水

主査 鈴木雅次君

委員 伊藤 信君 柿 徳市君 塚本 穣君  
山口十一郎君 平川保一君 關谷新造君  
城戸銀吉君 横山 喬君 竹内常八君  
熊田隆治君 井關正雄君 杉山宗次郎君  
後藤季總君 西田敏夫君 末松 榮君  
今井 哲君 吉岡計之助君

第 3 部 道 路

主査 佐藤利恭君

委員 金子源一郎君 樋浦大三君 西田敏夫君  
末松 榮君 塚本 穣君 山口十一郎君  
平川保一君 關谷新造君 城戸銀吉君  
横山 喬君 竹内常八君 熊田隆治君

井 關 正 雄 君 杉 山 宗 次 郎 君 後 藤 季 總 君  
吉 岡 計 之 助 君

熊 田 隆 治 君 井 關 正 雄 君 杉 山 宗 次 郎 君  
後 藤 季 總 君 吉 岡 計 之 助 君

第 4 部 鐵道, 軌道, 索道

關西支部關係委員

主査 佐土原 勲君 沖 鹽 政 次 君  
委員 金子源一郎君 岡 部 二 郎 君 近 藤 信 一 君  
淺 間 逸 雄 君 井 上 隆 根 君 佐 藤 周 一 郎 君  
田 中 勤 君 中 原 壽 一 郎 君 山 口 繁 君  
背 山 武 雄 君 淺 野 定 一 君 桑 原 竹 二 君  
小 牧 孟 夫 君 千 秋 邦 夫 君 竹 村 孝 君  
松 下 幹 雄 君 光 成 毅 平 君 柳 瀬 正 哉 君

福 留 並 喜 君 川 上 留 吉 君 近 藤 泰 夫 君  
鮫 島 午 吉 君

- 3. 調査用紙は別紙(省略)の通り決定せり。
- 4. 各委員より9月末日までに調査する材料を各部主査に提出することとせり。

關 西 支 部 記 事

各種委員會の開催

第 2 回阪神水害対策調査委員會(昭. 13. 8. 16.)

第 3 回 同上 幹事會(昭. 13. 8. 30.)

西 部 支 部 記 事

第 1 回役員會(昭. 13. 8. 13.)

出席者: 君島支部長, 佐藤(忠), 佐藤(長), 土肥, 松尾, 三瀬; 山田各商議員, 鮫島幹事長, 安藏, 大川兩幹事

附議事項

- 1. 設立經過, 2. 支部一般會員に報告, 3. 業務(大會の時期及場所, 會員募集方法, 特別員並に賛助員勧誘)
- 4. 役員の業務分擔, 5. 支部事務所設置, 6. 主事及書記委嘱, 7. 會計, 購買, 雜件

そ の 他 記 事

○昭和 13 年 9 月 1 日土木學會誌第 24 卷第 9 號を發行, 成規の手續を了し全會員に配布せり。

第 5 部 土地, 建築物

主査 春 藤 眞 三 君  
委員 花 房 利 市 君 松 井 達 夫 君 今 井 哲 君  
下 村 猛 君 山 口 十 一 郎 君 平 川 保 一 君  
關 谷 新 造 君 城 戸 鎖 吉 君 横 山 喬 君  
竹 内 常 八 君 熊 出 隆 治 君 井 關 正 雄 君  
杉 山 宗 次 郎 君 後 藤 季 總 君 吉 岡 計 之 助 君

第 6 部 上下水道

主査 河 口 協 介 君  
委員 今 井 哲 君 下 村 猛 君 山 口 十 一 郎 君  
平 川 保 一 君 關 谷 新 造 君 城 戸 鎖 吉 君  
横 山 喬 君 竹 内 常 八 君 熊 田 隆 治 君  
井 關 正 雄 君 杉 山 宗 次 郎 君 後 藤 季 總 君  
吉 岡 計 之 助 君

第 7 部 其の他(水力電氣, 構作物, 港灣等)

主査 高 橋 嘉 一 郎 君  
委員 松 岡 又 二 君 佐 藤 肇 君 今 井 哲 君  
山 口 十 一 郎 君 平 川 保 一 君 關 谷 新 造 君  
城 戸 鎖 吉 君 横 山 喬 君 竹 内 常 八 君

入 會 及 転 格 會 員

特 別 員 (入 會)

磐城セメント株式會社	長 瀬 菊 次 郎 君	小 室 萬 五 郎 君	眞 田 義 彰 君	3 級
株式會社清水組大阪支店	小 笹 徳 藏 君	鈴 木 一 幸 君	小 野 美 造 君	〃
中央土木株式會社	宮 長 平 作 君	發 地 長 太 郎 君	諏 訪 部 博 君	〃
東武鐵道株式會社	根 津 嘉 一 郎 君			〃

准 員 (入 會)

飯 田 榮 造 君	東 瀨 電 氣 鐵 道 株 式 會 社	福 田 孝 太 郎 君	雨 瀨 電 力 株 式 會 社	山 下 成 人 君	墨 瀨 電 力 株 式 會 社
川 上 收 治 君	新 潟 市 役 所 土 木 課	三 崎 彌 太 郎 君	滋 賀 縣 大 津 土 木 出 張 所		
鹽 川 竭 君	東 邦 電 力 株 式 會 社	村 上 登 久 雄 君	吳 海 軍 建 築 部		

## 會 員 ( 転 格 )

三村 通 精君 兩能電力株式会社

## 准 員 ( 転 格 )

齋 藤 光 雄君

住 友 利 治君 株式会社大阪鉄工所

## 土 木 学 會 々 員 数

會 員	准 員	学生員	特別員	賛助員	合 計
3 012	3 575	789	76	21	7 473

會 員 木津正治君 昭和 18 年 8 月 14 日逝去せられたり、本會は弔詞を靈前に  
呈し恭しく哀悼の意を表したり

會 員 岸金三郎君、杉谷幸藏君 の訃報に接す、本會は恭しく哀悼の意を表す

准 員 吉武政俊君 は今次の支那事変に於て名譽の戦死を遂げらる、本會は恭し  
く哀悼の意を表す

# 會 告

## 講演と映畫の會

下記の通り講演と映畫の會を催します、多數の御來會を希望致します。

日 時：昭和 13 年 10 月 11 日（火曜日）午後 5 時

會 場：帝國鐵道協會（麴町區丸ノ内 3 / 4）

講 演：北支土木事業に就て

土木學會前會長 工学博士 大河戸 宗 治君

土木學會副會長 工学博士 新 井 榮 吉君

大河戸、新井兩君は土木學會代表として北支に於ける土木事業視察並に慰問のため 8 月 19 日東京を出發、北京、張家口、大同、包頭、天津等の現状を親しく視察し歸朝せられましたので其の報告と講話を拜聴することに致しました。

映 畫：歐米都市文化施設 天然色映畫全 3 卷

(Master in Landscape Architecture in City Planning. 下山重丸氏撮影)

○映畫終了後午後 7 時より有志晚餐會を催します、御繰合せ御出席を願ひます。

會費 2 圓（當日御持參のこと）

○御出席の有無を 10 月 7 日までに御申出下さい。

土 木 学 會

# 會 告

## 土木映畫資料懸賞募集

下記規定に依り土木映畫資料を懸賞募集致します、締切期日を 10 月末日まで延期しましたから奮て応募して下さい。

1. 内 容： 土木に関する知識の普及を目的とせる劇映畫，文化映畫の筋又は脚本及實寫，編輯。
2. 形 式： 必ず梗概 (1500 字以内) を附すること。  
必ずしも「シナリオ」の形式に依るを要せず。
3. 応募資格： 一般 (必ずしも土木学会々員たるを要せず)。
4. 締 切： 昭和 13 年 10 月末日。
5. 審 査： 土木学会文化映畫委員会委員及適當なる専門家に依頼す。
6. 賞 金： 1 等 100 円 1 名  
2 等 30 円 2 名  
佳作 賞品 若干名
7. 發 表： 入選者は土木学会誌第 25 卷第 1 號にて發表す。
8. 備 考： 応募原稿は返却せず。  
入選せる原稿に関する總ての權利は土木学会に屬す。
9. 申 込 所： 東京市麴町區丸ノ内 3 / 6 土木学会

土 木 学 會

# 會 告

## 土木學會關西大會

昭和 13 年 10 月 23 日 (日) 京都市に於て下記の如く土木學會關西支部主催にて關西大會が開催されますから、各方面多數會員の御出席を希望致します。

關西支部管外の會員にして出席希望者は前以つて下記宛御申込願ひます。

京都帝國大学工学部土木工学教室内 土木學會關西大會委員會

### I. 開會式及講演 (午前 8.00~12.00); 於京都帝國大学法經第 4 教室

開 會 式: 開會の辭及關西支部長講演

講 演:

1. 會. 坂元左馬太君: 吹田操車場に於ける新設ハンプの設計に就て (縱断形狀の考察)
2. 會工博. 武居高四郎君: 地方計畫の眞髓
3. 會. 中條都一郎君: 下水處理に於ける汚泥瓦斯發生量と其の動力的利用に就て
4. 會工. 林 千 秋君: 防波堤の使命
5. 會工. 藤井雄之助君: 黒部川第 3 發電所工事中, 阿曾原温泉地帯高熱隧道工事に就て
6. 會工. 光井三郎君: 大阪市地下鉄工事に就て

### II. 見 学 (午後 1.00~4.00)

見学個所: 鴨川改修工事及京都市松ヶ崎淨水場 (會費不要)

### III. 懇親會及座談會 (夜 5.00~8.00); 於京都帝國大学樂友會館

懇 親 會: 會費 3.00 円

座 談 會: 京阪神に於ける河川統制問題を中心としたる座談會にして、  
初めに會工博. 高西敬義君の講演あり。

土木學會關西支部



# 會 告

本會々員にて今次の事変に際して出征せられた方は出征中會費免除の手続きを採りますから至急當  
 學會まで御通告下さい。本會は下記応召會員各位の武運長久を祈る。

## 應 召 會 員 氏 名

- |  |  |   |  |  |  |   |   |   |  |  |
|--|--|---|--|--|--|---|---|---|--|--|
| 青木君<br>上山君<br>片山君<br>後藤君<br>田中君<br>成瀬君<br><br>伊藤君<br>池田君<br>一字君<br>尾岡君<br>加金君<br>川上君<br>河北君<br>桑原君<br>後佐君<br>佐澤君<br>杉清君<br>高竹君<br>豐永君<br>乘平君<br>藤別君<br>増松君<br>三山君<br>吉田君<br><br>浦部君<br>宮崎君 | 信之助君<br>鐵文君<br>山藤君<br>中瀬君<br>正成君<br><br>一貫君<br>之瀬君<br>田倉君<br>辻本君<br>加藤君<br>金子君<br>村上君<br>村英君<br>原於君<br>後藤君<br>佐藤君<br>田原君<br>野井君<br>谷田君<br>井富君<br>間井君<br>所田君<br>田輪君<br>三山君<br>吉田君<br><br>千尋君<br>尋成君 | 安藤君<br>浦田君<br>川島君<br>齋藤君<br>高野君<br>丹羽君<br><br>井内君<br>石尾君<br>乾市君<br>上大君<br>沖加君<br>藤川君<br>木吉君<br>小久君<br>野佐君<br>伯藤君<br>設杉君<br>田高君<br>筑中君<br>永橋君<br>廣藤君<br>堀増君<br>松村君<br>山山君<br>吉田君<br><br>金出君<br>地芳君 | 四清君<br>喜一郎君<br>藤四郎君<br>野有君<br>良彦君<br><br>治一君<br>良太郎君<br>要三郎君<br>岡順二君<br>田三重君<br>藤昌三君<br>崎發三君<br>原策三君<br>川吉次君<br>久保八君<br>野秀郎君<br>伯藤郎君<br>榮芳一君<br>島三郎君<br>瀨龍馬君<br>島良平君<br>田賢三君<br>修政君<br>本井君<br>山本君<br>田登君<br><br>朗太郎君<br>史太郎君 | 井上君<br>梅澤君<br>國坂君<br>坂富君<br>西島君<br><br>井上君<br>石今君<br>内大君<br>大萩君<br>鹿沼君<br>河木君<br>熊小君<br>國佐君<br>齋四君<br>杉田君<br>高仲君<br>中根君<br>日藤君<br>堀松君<br>松森君<br>山湯君<br>吉野君<br><br>田所君<br>米澤君 | 太郎君<br>景秀君<br>舜二君<br>野昇君<br>野凱君<br>野尙君<br><br>忠政君<br>九三君<br>田源君<br>原三君<br>正吉君<br>正二君<br>善為君<br>正政君<br>良小君<br>萬光君<br>文重君<br>志正君<br>信雄君<br>貞三君<br>久一君<br>太郎君<br>三三君<br>進安君<br>貞正君<br>野君<br><br>文佳君<br>年君 | 飯田君<br>尾倉君<br>篠長君<br>古田君<br><br>五十君<br>石倉君<br>遠大君<br>真片君<br>神河君<br>龜栗君<br>小近君<br>佐里君<br>清鈴君<br>田高君<br>對中君<br>野平君<br>福本君<br>松丸君<br>安山君<br>山吉君<br>和田君<br><br>北條君<br>和田君 | 太郎君<br>夫一郎君<br>司武二君<br>介君<br><br>二治君<br>治君<br>次君<br>弘君<br>郎君<br>則君<br>三君<br>貞太郎君<br>長愛君<br>忠典君<br>清一君<br>榮正君<br>樹君<br>傳君<br>保君<br>謙君<br>和恒君<br>中時君<br>豐君<br><br>稔正君<br>一君 | 石川君<br>奥小君<br>清内君<br>山岸君<br><br>池板君<br>板宇君<br>小大君<br>奥山君<br>金澤君<br>川原君<br>河岸君<br>桑小君<br>佐佐君<br>澤須君<br>鈴田君<br>竹内君<br>月中君<br>能平君<br>福藤君<br>政松君<br>三山君<br>山吉君<br>渡邊君<br><br>的場君<br>一郎君 | 與秋君<br>田谷君<br>水藤君<br>岸岸君<br><br>武正君<br>美辰君<br>澤藤君<br>山義君<br>澤常君<br>原忠君<br>正純君<br>重源君<br>克正君<br>藤木君<br>村內君<br>村吉君<br>登野君<br>島輝君<br>本井君<br>橋好君<br>山本君<br>山吉君<br>渡邊君<br><br>場一君 | 一夫君<br>秋馬君<br>金吉君<br>水雄君<br>藤壽君<br>岸誠君<br><br>男司君<br>喜二君<br>幸雄君<br>之介君<br>次郎君<br>忠次君<br>男君<br>純君<br>重道君<br>源克君<br>正利君<br>誠一君<br>村內君<br>一德君<br>吉光君<br>五郎君<br>勳夫君<br>輝文君<br>弘安君<br>作藏君<br>之助君<br>三郎君<br>浩友君<br><br>一郎君 |
|--|--|---|--|--|--|---|---|---|--|--|

昭和 13 年 9 月 10 日

土 木 學 會

# 會 告

## 御住所不明會員に就て御願ひ

下記諸君は転居先の御通知がないため、會誌の配布を始め、その他の諸通信が出来ませんのは誠に遺憾であります。どうぞ知人の方は御手敷恐れ入りますが、御本人に御注意下さるか本會にその住所又は勤務先を御知らせ願ひます。

### 會 員

荒川 參太郎君	稻 葉 彌 吉君	木村 貫一郎君	小 林 源 次君
藤 増 能君	山 本 保 之 助君		

### 准 員

和 泉 高 毅君	池 田 乙 次 郎君	池 田 角 太 郎君	緒 方 政 雄君
大 森 鶴 吉君	佐 藤 與 吉君	徐 三 善君	栗 田 忠 治君
小 林 義 雄君	野 口 金 太君	關 佳 夫君	曾 我 進君
船 橋 貞 一君	高 橋 理 三 郎君	本 橋 二 郎君	吉 見 胤 隆君
中 野 順 太 郎君	難 波 壽 一君	劉 作 檀君	濱 崎 禎 四 郎君
平 本 源 太 郎君	宮 田 巖君	石 原 三 郎君	齋 藤 賢 策君
多 田 安 三 郎君			

## 時報、會員の頁記事及工事寫眞募集

◎時報欄は下記内容の記事を掲載する事になつてゐますから適當なる記事の御投稿を御願ひ致します。

- 土木工事の計畫、設計、施工の進捗、竣功の状況、金額等のニュース
- 土木工学界の内外学協會、調査會、委員會等の設立、調査研究事項並に報告其の他會議、催物の簡單なる紹介
- 官廳、會社、公共團體の組織事業に関するニュース
- 法規、示方書、規定等の紹介

◎會員の頁は會員諸君の土木工学、土木工事、土木學會、土木技術社會に對する批判、時評、感想、希望等御發表の御利用に充てたものでありますから振つて御投稿を御願ひ致します。

◎工事中又は竣功せる工事の寫眞を募集致します。寫眞にはその工事の簡單なる説明を御記入下さい。

◎掲載の分には薄謝を呈上致します。

## 竣功せる朝六橋

本橋は東海の観光都岐阜市と、北陸の要都富山市とを結ぶ、府縣道第1號岐阜富山線中、岐阜縣益田郡小坂町地内に於て、小坂川の將に飛驒川（木曾川支流）に流れ込まんとする地點に架設せられて在る。在來橋は木造斜柱橋（2徑間）で新橋の上流約 50 m に在り、朱の高欄に青銅の凝寶珠を藏きたる優美な形は、飛驒路に残された唯一のものである。古より文学上にも名高く、橋南谿の東遊記に載せられ、又俳聖芭蕉の句が有る。

「朝六や月見の旅の明けはなれ」

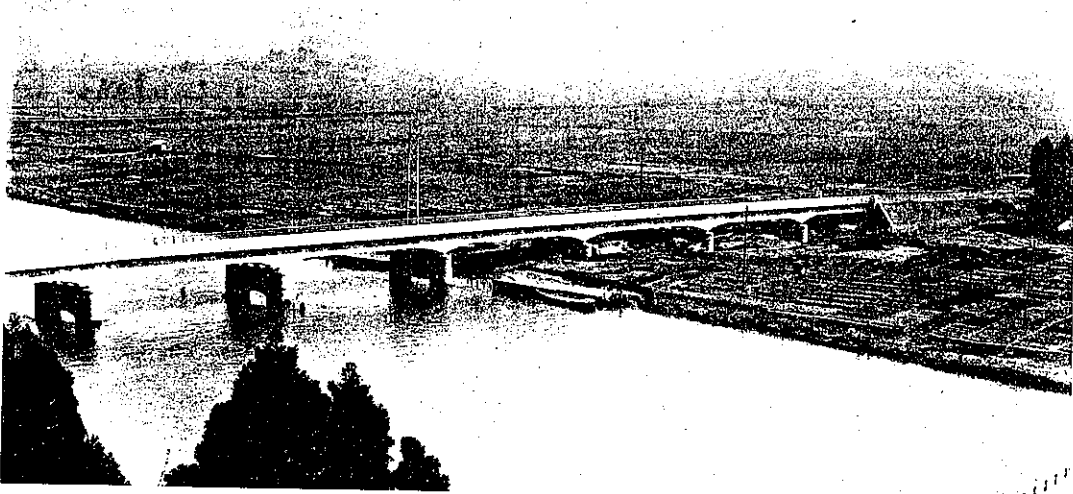


橋体の腐朽甚しきと、路線の屈曲を除去するため、岐阜縣土木課によりて昭和 19 年 3 月起工、橋梁工事は請負とし、附帶道路工事は直營を以つて施工し、本年 3 月竣功せしものである。尙本工事の概要は次の如くである。

型 式：	鉄筋コンクリート無鈹拱橋	
徑 間：	40.0 m	拱 矢： 8.0 m
橋 長：	47.0 m	有效幅員： 5.5 m
勾 配：	縦断 1:50, 横断 1:50	
橋面舗装：	碎石コンクリート	
高 欄：	人造花崗石	
工費（取付道路工事を含む）：	53 000 円	

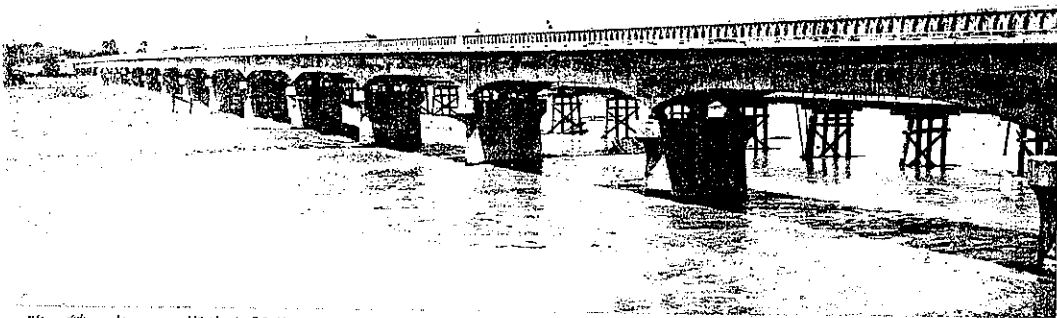
# 富山縣下の2橋梁

## 城光寺橋



路線名:	指定府縣道高岡伏木線	橋種:	鉄筋コンクリートゲルバー橋
橋位名:	高岡市城光寺, 射水郡伏木町立會	橋長:	238.6 m
河川名:	小矢部川	橋荷重:	第三種
有効幅員:	8.0 m	最大支間:	23.8 m
主橋脚基:	17 m 間隔 5 本通り	橋脚:	ラメーン形鉄筋コンクリート造
橋脚基礎:	円形井筒内径 2.6 m, 深 9.8 m 井筒 2 基建	橋面舗装:	碎石コンクリート
橋脚蓋:	重方式コンクリート橋臺		
欄柵:	瓦斯管造り	竣功:	昭. 13. 4. 30.
高取付道:	延長 162.0 m, 有効幅員 10.0 m		
總工費:	172 850円		

## 大田橋



路線名:	指定府縣道普川出町線	橋種:	鉄筋コンクリート 3 径間連続桁橋
橋位名:	東礪波郡大田村, 般若村立會	橋長:	443.0 m
河川名:	庄川	橋荷重:	第三種
有効幅員:	5.5 m	最大支間:	25.0 m
主橋脚基:	2.0 m 間隔 3 本通り	橋脚:	鉄筋コンクリート造り
橋脚基礎:	小判形井筒内径 2.7 m, 深 9.0 ~ 11.0 m 井筒 1 基建	橋面舗装:	膠石
橋脚蓋:	重方式コンクリート橋臺		
欄柵:	鉄筋コンクリート造り	竣功:	昭. 13. 6. 30.
高取付道:	延長 463.0 m, 有効幅員 5.5 m		
總工費:	246 200円		

## 寄稿に関する注意

1. 用紙 成るべく本會の原稿用紙を使用され度し。原稿用紙は御請求次第御送り致します。
  2. 頁數 頁數は本會の原稿用紙 180 枚 (本會誌 30 頁) 以内とされ度し。若し前記頁數を超過する場合は登載をお断りすることがあります。
  3. 文体 文体は文章的口語体とす。本文に重要な關係のない前置、挨拶等は省く事。この方針に基づき適當の字句の修整、短縮を行ふことがありますから御了承あり度し。
  4. 書体 楷書とし、假名は平假名、數字は算用數字、ローマ字は文部省制定ローマ字を使用され度し。歐字は特に明瞭に認められ度し。例へば  $n$  と  $u$ ,  $v$  と  $v$ ,  $r$  と  $v$ ,  $a$  と  $\alpha$ ,  $r$  と  $\gamma$ ,  $d$  と  $\delta$ , その他  $C$  と  $c$ ,  $K$  と  $k$ ,  $O$  と  $o$  等頭字と小字とを判然たらしむる事。
  5. 數字名數 數字は 3 桁毎に間隔をあげる事 名數は次の如く書き括弧内の如く書くを避けること。  
例へば  
35 錢 (三十五錢), 13.56 円 (十三円五十六錢), 1~4 時間 (一時間乃至四時間),  
88336 t (八萬八千三百二十六噸), 昭. 13. 1. 1. (昭和十三年一月一日),  
m (米),  $m^3$  (立方米), kg (斤), 83.4 尺 (八丈三尺四寸)
  6. 用語 用語は本會制定用語に依られ度し (本會制定用語は本會發行の土木工学用語集参照)。  
コンクリートは片假名で記し漢字を用ひざること。
  7. 図表 (1) 図表は図-1, 表-1 等と書き図表題を記すこと。  
(2) 複雑なる表の如きは成るべくグラフにて示す事。  
(3) 図面はその儘縮寫し得る様にトレーシングペーパー、オイルペーパー、トレーシングクロス等とすること。  
(4) 図表は凡て墨色を用ひインキ類或は採色を施さざる事。  
(5) 方眼紙は青罫のものを用ひ (黄色、赤色の罫は使用せざる事) 縦横線を必要とする部分には豫め墨線にて之を描き置くこと。  
(6) 図表の文字數、字は特に大きく書かれ度し、縮寫の標準は 1/2~1/5 程度を以て縮寫後の文字の大きさを約 2mm 程度となる様され度し。  
(7) 図表類は版の都合上かなり汚損するものと豫め御含み下され度し。
  8. 寫眞 寫眞は特に明瞭なるものを送られ度し。
  9. 其他 (1) 論說報告は邦文に限る。  
(2) 講演及論說報告には必ず英文表題及邦文要旨並に著者の職名勤務所名を添附され度し。
- 附記 (1) 彙報、時報、抄録及工事寫眞にして掲載せる分には薄謝を呈します。  
(2) 講演、論說報告の各欄に掲載の分には抜刷 30 部を寄稿者に贈呈致します。尙 30 部以上御希望の向には豫め御通知ある場合に限り實費にて御要求に応じます。

## 図書室及娯楽室御利用に就て

本會所有の図書及雑誌は本會図書室に備付けてありますから、下記時間内御随意に御閲覧下さい。尙娯楽室には碁、將棋盤を備付けてありますから御利用を御願ひ致します。

自9月1日至12月28日 自午前9時至午後8時、自7月21日 及土曜日 自午前9時至午後4時、  
自1月4日至7月20日 自午前9時至午後8時、自8月31日

但し 日曜日及祭日休

---

## 図書御寄贈の御願ひ

本會は本會所有の図書雑誌を整理し、図書室を設備致しました、又新に本會誌に新刊紹介欄を設け、新刊書の内容を紹介する事に致しましたから、會員の著書其の他図書雑誌は大小に拘らず學會宛御寄贈下さる様御願ひ致します。

---

## 徽章佩用に就て

本會の徽章は一般會員の方々に必ず佩用して頂く事に致してをります。講演會、見學會其の他事務所御利用には徽章佩用を必要としますから、未だ佩用せられない方は至急御申出下さい。

1. 徽章の寸法 径 14 mm
2. 品種 銀地金文字浮出し
3. 種類 詰襟服用と背廣服用の別あり
4. 實費 金 50 錢 (郵送の場合は外に書留郵便料 1 個に付金 14 錢を要す)



(實物大)

## 會員転居転勤の場合の注意

會員の御転居又は御転勤の場合は即時明細に御通知下され度し。

### 會費納付に付き注意

會費	會員種格	會費年額	第1期分 (1月~6月)	第2期分 (7月~12月)
	會員	金 12 円	金 6 円	金 6 円
	准員	金 9 円	金 4.50 円	金 4.50 円
	学生員	金 6 円	金 3 円	金 3 円

新入會者は月割計算とす。

納期 第1期分：3月 第2期分：9月

納付方法 集金郵便を差向けます（旅行等にて御不在の場合も拂込に支障なき様御配慮下さい）。

振替郵便御利用の場合は振替口座東京 16828 番へ願ひます。

朝鮮滿洲の一部等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は納期の翌月末迄に爲替その他の方法に依り御送金相成度し。

會費一時納付の御豫定の場合は豫め御通知下され度し。

未納の場合 集金郵便に對し故なく支拂を拒絶し又はその他の方法により御送金なき場合は會費滞納者として遺憾ながら定款第2章第14條第1項に依り會誌の配布を停止せられます。

### 會誌未着の場合の注意

會誌は毎月1日に發行し漏なく配布致しますから、未着の場合には一応本會に御照會下さい。

發行後數ヶ月経過しての照會は時に殘部皆無となり配布不可能の場合があります。

# 既刊會誌殘部内譯

(\* は残部有るものを示す)

卷	號	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	金額(1部)
5		*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(註) 1.00
6		—	—	—	—	—	*	—	—	—	—	—	—	1.00
7		—	*	*	*	—	—	—	—	—	—	—	—	1.50
8		*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
9		*	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
10		—	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
11		—	*	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.00
12		—	*	*	—	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
13		—	*	*	—	—	*	—	—	—	—	—	—	2.00
14		*	*	*	*	*	*	—	—	—	—	—	—	2.00
15		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
16		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
17		*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
18		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.00
19		*	*	*	—	*	*	*	*	*	*	—	*	1.00
20		—	*	*	*	—	—	—	—	—	—	*	*	1.00
21		—	—	—	*	*	—	*	—	*	—	*	*	1.00
22		—	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	1.00
23		—	*	*	*	—	—	—	—	*	*	—	—	1.00
24		—	*	*	—	—	—	*	—	—	—	—	—	1.00
第 20 卷第 12 號 (創立 20 周年記念號)..... 1.50														
第 21 卷第 7 號 (會誌索引付)..... 1.30														
震害調査報告書 (1, 2, 3)..... 18.00														
応用力学聯合大會講演集..... 1.00														
鉄筋コンクリート標準示方書}..... 1.00														
同上解説}..... 1.00														
土木工學論文抄録..... 3.50														
土木學會誌索引 (第 1 卷第 1 號~第 20 卷第 12 號)..... 0.50														
土木工學用語集..... 2.50 (送料別)														

上記残部會誌御希望の場合は所要金額を振替口座東京 16828 番に拂込用紙通信欄にその旨記入請求せられたし。



## 廣 告 料

普通廣告	1回 1頁	35円	1回半頁	20円
指定廣告	〔裏表紙3面對 向及廣向初頁〕	1回 1頁	40円	
		色アート	1回 1頁	60円

- 指定廣告は凡て1年継続申込のものに限り取扱ふものとす
- 會員自身の廣告に對しては總て上記料金の1割引とす
- 同一廣告の連続掲載申込に對しては1年4回以上1割引とす
- 廣告に寫眞版又は木版等を挿入する場合は之に要する實費を別に申受くるものとす

昭和13年9月25日印刷 昭和13年10月1日發行 (定價金1円)

東京市牛込區南町33番地  
編輯兼發行者 中 村 孫 一

東京市神田區美土代町16番地  
印 刷 者 島 連 太 郎

東京市神田區美土代町16番地  
印 刷 所 三 秀 舍

東京市麴町區丸ノ内3丁目6番地

發 行 所 社 團 法 人 土 木 学 會

電 話 丸ノ内(23) 3945番, 振替口座東京16828番

# DOBOKU-GAKKAI-SI

(JOURNAL OF THE CIVIL ENGINEERING SOCIETY)

VOL. XXIV, NO. 10, OCTOBER 1938.

## CONTENTS

	Page
Proceedings of the Society .....	93
<b>Address</b>	
On the Engineering Works in the Central China.	
<i>By Syūzi Inoue, C. E., Member,</i> .....	1079
<i>By Akira Aoyama, C. E., Member.</i> .....	1087
<i>By Keisi Hasimoto, C. E., Member.</i> .....	1093
<b>Papers</b>	
On the Center Close of Cantilever Erection of Gerber-Truss Bridge.	
<i>By Gonbee Inaba, C. E., Member.</i> .....	1097
Freight Transportation and Various Improvements around Niigata.	
<i>By Keizi Satō, C. E., Member.</i> .....	1101
The Motion of the Plumb-Bob suspended between 2 Pulleys.	
<i>By Rei Etō, C. E., Member.</i> .....	1113
Notes on Matters of Interest .....	1117
Abstracts of Selected Articles .....	1127
Current Notes .....	1165
Our Members Say .....	1175
Patent News .....	1177
New Publications .....	1179

## OFFICE

No. 6, 3-TYŌME, MARUNOUTI, KŌZIMATI-KU, TŌKYŌ, JAPAN.

昭和十三年九月二十五日印刷  
昭和十三年十月一日發行  
（毎月一冊、一日發行）  
土木學會誌 第二十四卷